

言語学専攻分野科目

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 曜日・講時 |
|-------------|-------------------|----|------------------------------|------------|
| 言語学特論Ⅰ | 外国語教育実証研究法 | 2 | 加藤 万紀子 | 前期 金曜日 2講時 |
| 言語学特論Ⅱ | 音韻論概説Ⅰ | 2 | 那須川 訓也 | 前期 火曜日 2講時 |
| 記述言語学特論Ⅰ | フィールド言語学の実践と理論 | 2 | 内藤 真帆 | 前期 水曜日 4講時 |
| 理論言語学特論Ⅰ | 統語論入門 | 2 | 小泉 政利 | 前期 木曜日 1講時 |
| 学習・言語心理学特論Ⅰ | 学習・言語心理学の基礎 | 2 | 木山 幸子 | 前期 水曜日 2講時 |
| 実験言語学特論Ⅰ | コーパスを活用した定量的言語研究法 | 2 | 木山 幸子 | 前期 木曜日 2講時 |
| 言語学総合演習Ⅰ | 言語学研究法Ⅰ | 2 | 木山 幸子・内藤 真帆・小泉 政利・加藤 万紀子 | 前期 金曜日 4講時 |
| 言語学総合演習Ⅱ | 言語学研究法Ⅱ | 2 | 加藤 万紀子・木山 幸子・内藤 真帆・小泉 政利・熊可欣 | 後期 金曜日 4講時 |
| 言語学研究演習Ⅰ | 言語テストと評価 | 2 | 加藤 万紀子 | 後期 金曜日 2講時 |
| 言語学研究演習Ⅱ | 音韻論概説Ⅱ | 2 | 那須川 訓也 | 後期 火曜日 2講時 |
| 記述言語学研究演習Ⅰ | 未知の言語の調査と分析 | 2 | 内藤 真帆 | 後期 水曜日 5講時 |
| 理論言語学研究演習Ⅰ | 言語と思考 | 2 | 小泉 政利 | 後期 木曜日 1講時 |
| 実験言語学研究演習Ⅰ | 言語実験の実践 | 2 | 木山 幸子 | 後期 水曜日 2講時 |

科目名：言語学特論 I / Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：加藤 万紀子

コード：LM15205, 科目ナンバリング：LIH-LIN601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：外国語教育実証研究法

2. Course Title (授業題目) : Empirical Research Methods in Foreign Language Education

3. 授業の目的と概要：外国語教育における実証研究は、研究デザインから分析結果の報告に至るまで科学的な手法に沿って行われます。そして実証研究論文では、実験方法、実験参加者、実験手続きなどの詳細を研究結果とともに詳しく報告する必要があります。この授業では、外国語教員を目指す学生だけでなく言語学分野における実証研究を行うことを予定している学生を対象に、実証研究を行う上での基本的な知識を習得した上で、研究デザインの作成、データの分析、結果の報告のし方を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Empirical research in foreign language education follows scientific methods, from research design to data collection, to reporting the results of the analysis. When producing an empirical research paper, the researcher should elaborate the rationale, the methodology including instrumentation, sampling, data collection, and data analysis. In this course, students who plan to conduct empirical research in the field of linguistics as well as students aiming to become foreign language teachers will learn how to design the research, analyze data, and report the results after acquiring basic knowledge for conducting empirical research.

5. 学習の到達目標：1) 研究課題を設定することができる。

2) 研究デザインを作成することができる。

3) 研究課題を解決するためのデータ収集と分析方法を決めることができる。

4) 適切な方法で分析結果を報告することができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to...

1) choose a research topic and form research question(s).

2) design their own research.

3) decide the ways of data collection and data analysis for research.

4) report the results of the analyses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回目：オリエンテーション

第2回目：研究テーマの見つけ方、研究課題の設定の仕方

第3回目：実証研究の種類と研究デザイン・アプローチの種類

第4回目：データ収集の方法

第5回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第6回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第7回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第8回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第9回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第10回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第11回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第12回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第13回目：混合研究法の紹介とデータ収集・分析の方法

第14回目：研究デザイン作成の方法

第15回目：分析結果の報告方法

8. 成績評価方法：

・小テスト（30 %）2 回目から 15 回目の授業で毎回行います。

・リアクションペーパー（20 %）毎回の授業で行います。

・授業参加（20%）授業でのディスカッションや練習に積極的に参加して下さい。

・研究デザイン（30 %）詳細な研究デザインを作成し、学期の最後に提出をしてもらいます。

9. 教科書および参考書：

授業で資料を配布します。(Materials will be distributed in the class.)

推薦図書は授業で紹介します。(Recommended books will be introduced in the class.)

10. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。興味のある研究テーマを見つける。

(Read the materials and literature to be distributed in the class, and present students' thoughts. Find a research theme they are interested in.)

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他:

科目名：言語学特論Ⅱ／Linguistics (Advanced Lecture) I I

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LM12205, 科目ナンバリング：LIH-LIN602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology I

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on segmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native sound system, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a general theory of grammar.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進捗は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論とは何か。

第2回：音韻論と音声学

第3回：規則体系としての言語

第4回：言語機能

第5回：中核文法と周辺体系

第6回：音素論

第7回：音素と異音

第8回：対立分布と相補分布

第9回：異音規則

第10回：音配列論

第11回：音韻範疇

第12回：母音素性

第13回：母音弱化

第14回：子音素性

第15回：子音軟音化

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (60%), 確認テスト×1 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の箇所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：記述言語学特論 I / Descriptive Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LM13407, 科目ナンバリング：LIH-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールド言語学の実践と理論
2. Course Title (授業題目)：Field Methods and Linguistic Analysis
3. 授業の目的と概要：フィールド言語調査の基本的な流れを、言語選定・調査地の探し方から調査票作成、調査・分析まで実践的に学びます。異なる言語集団の接触により誕生したピジン・クレオールを対象とし、基本的な音声・形態・文構造・意味の分析によりその言語特徴を明らかにするほか、音声と書記法・言語と国家・言語政策・言語接触・威信・借用などの社会言語学の観点からも分析・考察します。併せて、文化・歴史と関連させた言語人類学の観点からも考察します。なお比較・対照のために複数の言語データを扱います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces the fundamentals of research methodologies in Linguistics, covering everything from preparing the research project to them conducting it and analyzing the results. Students will research pidgin and creole, and analyze the data according to the perspective and methods of various approaches, such as descriptive linguistics, socio-linguistics, and linguistic anthropology.
5. 学習の到達目標：・ピジン・クレオールの言語特徴を分析により導く。
・言語調査の方法を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this course, students will have an understanding of the key procedural elements of field research in Linguistics, and they will also be able to explain the characteristics of pidgin and creole.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. フィールド言語学・記述言語学とは
 2. 調査地・調査言語の選定方法・調査許可
 3. 調査方法・調査準備・調査票 1 の作成
 4. ピジン・クレオールの背景
 5. ビスマラ語の聞き取り
 6. 現地語の聞き取り
 7. 3 言語の音声・音韻・形態の分析と比較
 8. 仮説の設定と調査票 2 の作成
 9. 3 言語の句構造・文構造の比較
 10. 名詞・動詞のパラダイム、意味体系の比較
 11. 仮説の設定と調査手法
 12. 3 言語の比較から導くピジン・クレオールの特徴
 13. 音声と書記法、言語と国家、威信、借用
 14. 言語接触のプロセスと言語変化
 15. 社会言語学・言語人類学的分析と発展研究
8. 成績評価方法：
定期試験 (70%)、発表 (30%)
9. 教科書および参考書：
適宜、資料を配布します。
10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：理論言語学特論 I / Theoretical Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

Semester : 1 学期 単位数 : 2

担当教員：小泉 政利

コード：LM14102, 科目ナンバリング：LIH-LIN607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Syntax

3. 授業の目的と概要：この授業では、まず統語論の基本的な概念と原理を学び、その後にさまざまな統語現象の分析事例に触れます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the basic concepts and principles of syntax as well as case studies of various syntactic phenomena. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

5. 学習の到達目標：統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。
身近な言語現象について自分なりに分析しようとする姿勢を身につけること。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to describe in their own words the basic concepts and principles of syntax, and develop an attitude of trying to analyze familiar linguistic phenomena in their own way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ことばの科学的研究方法
3. ことばの獲得の不思議、普遍文法
4. 語彙範疇と機能範疇、統語構造、X バー理論
5. 文の構造を再考する、意味役割、能動と受動
6. 数量詞と代名詞、コントロールと上昇、非対格仮説
7. 動詞句内主語仮説、主要部移動、Wh 疑問詞と題目の移動
8. Ergativity
9. Tongan Syntax
10. Case Theory
11. Syntactic Ergativity in Tongan
12. Morphological Split: Accusative Behaviour of Pronouns
13. Raising or No Raising?
14. Passive
15. Antipassive and Middle Constructions

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：50%
- ・宿題：50%

9. 教科書および参考書：

教科書

岸本秀樹『ベーシック生成文法』ひつじ書房

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：学習・言語心理学特論 I / Psychology of Language and Learning (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM13206, 科目ナンバリング：LIH-LIN605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：学習・言語心理学の基礎

2. Course Title (授業題目) : Basics of learning psychology and psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの知見を得るために対してなぜそのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The study of learning psychology and psycholinguistics involves scientific investigations utilizing experiments to examine processes in which human behaviors change. To have a general understanding of these disciplines, students are required to summarize a paper to share with other students. They will consider connections between purposes and procedures to understand essential components of scientific research.

5. 学習の到達目標：学習・言語心理学の考え方や方法論の概要を理解する。当該領域の文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Upon completing this course, students should have a general understanding of the concepts and methodology of learning psychology and psycholinguistics. They will improve effective presentation skills using their everyday vocabulary to share major points of research papers in this field with those without the knowledge.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

- (1) ガイダンス (教員)
- (2) 学習心理学の概要 (教員)
- (3) 言語心理学の概要 (教員)
- (4) 生得的行動 (受講生)
- (5) レスポンデント (古典的) 条件づけ (受講生)
- (6) オペラント (道具的) 条件づけ (受講生)
- (7) 問題解決 (受講生)
- (8) 技能学習 (受講生)
- (9) 社会的学習 (受講生)
- (10) 音声・音韻の発達 (受講生)
- (11) 語彙の発達 (受講生)
- (12) 文法の発達 (受講生)
- (13) 談話・会話処理の発達 (受講生)
- (14) 言語に関わる障害 (受講生)
- (15) まとめ (教員)

8. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業後の課題 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書：木山幸子他 (2022) 『学習・言語心理学 (ライブラリ心理学の杜 7)』サイエンス社

10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：実験言語学特論 I / Experimental Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM14209, 科目ナンバリング：LIH-LIN608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コーパスを活用した定量的言語研究法

2. Course Title (授業題目) : Quantitative research methods of language utilizing corpora

3. 授業の目的と概要：テキストの集積であるコーパスは、言語学やその関連領域の研究に様々な形で活かされています。本授業では、まず前半でコーパスを利用した研究の可能性を把握した上で、定量的研究をする上での基本的事項や処理・分析法を学びます。後半では、コーパスを利用した実際の定量的研究事例を深く理解し、受講生自身のことばに関する関心事をコーパスによって確かめる作業を行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Corpora, collections of language resources, are utilized in many different ways in linguistics or the related disciplines. In this course, students will first overview the possibilities of corpus studies, and then learn how to extract, process, and analyzed the data. In the latter half of the course, they will explore actual quantitative studies using corpora in depth, and experience the process of corpus linguistics to examine their own interests about language.

5. 学習の到達目標：コーパス言語学の歴史と可能性を理解する。実際にコーパス研究を体験し、言語の科学的研究の方法論を習得し、学位論文研究を主体的におこなうための素地を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students are expected to understand the history and possibilities of corpus linguistics. They will experience the process of corpus research, with which they learn the scientific research methodology of language. This experience will be beneficial for students to complete their theses independently.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している：

- (1) ガイダンス (教員)
- (2) 多様な言語資源、コーパスの概要① (教員)
- (3) 多様な言語資源、コーパスの概要② (教員)
- (4) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト①)
- (5) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト②)
- (6) コーパスを活用した研究紹介 (教員)
- (7) コーパスデータの検索・分析法 (教員)
- (8) コーパス研究プロジェクト立案① (受講生)
- (9) コーパス研究プロジェクト立案② (受講生)
- (10) コーパス研究プロジェクト課題設定① (受講生)
- (11) コーパス研究プロジェクト課題設定② (受講生)
- (12) コーパス研究プロジェクト分析① (受講生)
- (13) コーパス研究プロジェクト分析② (受講生)
- (14) コーパス研究プロジェクト分析③ (受講生)
- (15) 最終成果プレゼンテーション (受講生)

8. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%) によって評価する。

9. 教科書および参考書：

指定しない。講読する文献を配布する。

10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当し、共同プロジェクトを進めてもらうので、自分の分担作業は責任をもって着実にやること (その自信がない場合は受講しないこと)。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：言語学総合演習 I / Linguistics (Integration Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：木山 幸子、内藤 真帆、小泉 政利、加藤 万紀子

コード：LM15406, 科目ナンバリング：LIH-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：Methods and practices of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、論文発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、方法、結果と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course students will deliver an oral presentation of their research, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion.

2. The presenter is encouraged to further improve the presentation on the bases of the discussion.

3. Participants should seek to gain acquaintance in various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：学会発表・論文作成の方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop skills needed to present a paper in an academic meeting and/or to submit a paper to an academic journal.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文 1 の口頭発表、質疑応答

3. 論文 2 の口頭発表、質疑応答

4. 論文 3 の口頭発表、質疑応答

5. 論文 4 の口頭発表、質疑応答

6. 論文 5 の口頭発表、質疑応答

7. 論文 6 の口頭発表、質疑応答

8. 論文 7 の口頭発表、質疑応答

9. 論文 8 の口頭発表、質疑応答

10. 論文 9 の口頭発表、質疑応答

11. 論文 10 の口頭発表、質疑応答

12. 論文 11 の口頭発表、質疑応答

13. 論文 12 の口頭発表、質疑応答

14. 論文 13 の口頭発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることを望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：言語学総合演習Ⅱ／Linguistics (Integration Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：加藤 万紀子. 木山 幸子. 内藤 真帆. 小泉 政利. 熊 可欣

コード：LM25406, 科目ナンバリング：LIH-LIN607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目)：Methods and practices of linguistic research II

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course students will deliver an oral presentation of their research, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion.

2. The presenter is encouraged to further improve the presentation on the bases of the discussion.

3. Participants should seek to gain acquaintance in various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：学会発表・論文作成の方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop skills needed to present a paper in an academic meeting and/or to submit a paper to an academic journal.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文 1 の口頭発表、質疑応答

3. 論文 2 の口頭発表、質疑応答

4. 論文 3 の口頭発表、質疑応答

5. 論文 4 の口頭発表、質疑応答

6. 論文 5 の口頭発表、質疑応答

7. 論文 6 の口頭発表、質疑応答

8. 論文 7 の口頭発表、質疑応答

9. 論文 8 の口頭発表、質疑応答

10. 論文 9 の口頭発表、質疑応答

11. 論文 10 の口頭発表、質疑応答

12. 論文 11 の口頭発表、質疑応答

13. 論文 12 の口頭発表、質疑応答

14. 論文 13 の口頭発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：言語学研究演習 I / Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：加藤 万紀子

コード：LM25207, 科目ナンバリング：LIH-LIN608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語テストと評価

2. Course Title (授業題目) : Language Testing and Assessment

3. 授業の目的と概要：言語教育におけるテストは、言語学習者の熟達度や到達度を測定することだけではなく、学習と教育を強化するための手段として大きな役割を担っています。この授業では、主に英語教育に焦点を置き、言語テストと評価の基本的理論を学び、主に 2 つの実践を行います。1 つ目は、言語教育におけるテストの役割、言語能力、テストの有用性を理解した上でテスト作成を行い、テストの妥当性と実用性を測定する方法を学びます。2 つ目は、テストの評価方法、テスト結果の分析方法・活用方法を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Tests in language education measure not only proficiency and achievement of language learners but also play a major role of strengthening learning and education. In this class, focusing mainly on English education, students will learn the basic theory of language testing and assessment, and practice two main things as below: First, they will develop a test with carefully considering the role of the test in Foreign language education, language use, and test usefulness, then learn how to measure the validity and practicality of a test. Second, students will learn how to assess the test and analyze/utilize the test results.

5. 学習の到達目標：1) 言語テストが備えるべき要件を満たしたテストが作成できる。

2) 言語テストの妥当性を測定することができる。

3) 言語テストの実用性を測定することができる。

4) テスト結果を分析することができる。

5) テストが学習者の学習方法や教師の教え方に及ぼす影響を測定することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to...

1) develop tests which meet the requirements of language tests.

2) measure the validity of language tests.

3) measure the practicality of language tests.

4) analyze test results.

5) measure the effect of the test on learners' learning method and teachers' teaching method.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回目：オリエンテーション/言語テスト・言語評価研究とは

第 2 回目：社会における言語テストの役割と波及効果

第 3 回目：言語テストの種類

第 4 回目：言語能力とは (1)

第 5 回目：言語能力とは (2)

第 6 回目：言語テストの有用性 (1)

第 7 回目：言語テストの有用性 (2)

第 8 回目：妥当性理論と妥当性検証 (1)

第 9 回目：妥当性理論と妥当性検証 (2)

第 10 回目：評価者訓練とテスト採点者の信頼性検証

第 11 回目：リーディングテストの作成と評価 (1)

第 12 回目：リーディングテストの作成と評価 (2)

第 13 回目：ライティングテストの作成と評価 (1)

第 14 回目：ライティングテストの作成と評価 (2)

第 15 回目：技能統合型テストと技能混合型テスト

8. 成績評価方法：

・小テスト (20 %) 毎回行います。

・リアクションペーパー (20 %) 毎回の授業で行います。

・作成テスト 1 (リーディング) (20 %)

・作成テスト 2 (ライティング) (20%)

・作成テスト 3 (技能統合型または技能混合型) (20%)

9. 教科書および参考書：

授業で資料を配布します。(Materials will be distributed in the class.)

推薦図書は授業で紹介いたします。(Recommended books will be introduced in the class.)

10. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。

(After each lesson, read the material distributed and prepare to present your thoughts.)

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：言語学研究演習Ⅱ／Linguistics (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LM22205, 科目ナンバリング：LIH-LIN609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology II

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on suprasegmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音節構造, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native syllable structure, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a general theory of grammar.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進捗は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論と音声学

第2回：英語の音配列論

第3回：きこえ度と音節

第4回：英語の音節構造

第5回：オンセット

第6回：ライムと核

第7回：コーダ

第8回：日本語の音配列論

第9回：日本語の音節構造とモーラ

第10回：音節類型論

第11回：強勢規則

第12回：最適性理論 (OT)

第13回：接辞化と音韻規則

第14回：複合語形成と音韻規則

第15回：借用語と音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (60%), 確認テスト×1 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の箇所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：記述言語学研究演習 I / Descriptive Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LM23509, 科目ナンバリング：LIH-LIN611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：未知の言語の調査と分析
2. Course Title (授業題目)：Research, Analysis, and Description of Non-Researched Languages
3. 授業の目的と概要：未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。
理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will focus on endangered languages that have not yet been researched. Students will both analyze data and document them using descriptive linguistic methods. The course will also include discussion about how such languages might be archived.
5. 学習の到達目標：・未知の言語の調査・分析方法を理解する。
・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to research, analyze and provide a linguistic description of an unknown, unresearched language.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
 2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
 3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
 4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
 5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別的特徴
 6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
 7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
 8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
 9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
 10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
 11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
 12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
 13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
 14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
 15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化
8. 成績評価方法：
定期試験 (70%)、発表 (30%)
9. 教科書および参考書：
適宜、資料を配布します。
10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：理論言語学研究演習 I / Theoretical Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

semester：2 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LM24102, 科目ナンバリング：LIH-LIN612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語と思考

2. Course Title (授業題目) : Language and thought

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、言語と思考に関する研究事例の批判的検討を通じて、言語学の基礎を学ぶことである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this class is to learn the basics of linguistics through a critical review of research cases on language and thought.

5. 学習の到達目標：下記について自分なりに説明できるようになることを目標とする。

a) オーストロネシア語族の言語の形態統語的特性

b) 言語と思考の関係

6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of the course, students should acquire a basic understanding of

a) morphosyntactic properties of Austronesian languages, and

b) the interaction of language and thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 月田 (2009a)

3 Tsukida (2005) 1

4 Tsukida (2005) 2

5 McDonnell and Chen (2022)

6 Chen (2023)

7 月田 (2009b) 6.1-6.2

8 月田 (2009b) 6.3

9 月田 (2009b) 6.4-6.5

10 月田 (2009b) 6.6

11 月田 (2009b) 6.7-6.8

12 月田 (2009b) 6.9-6.11

13 月田 (2009b) 6.12-6.13

14 月田 (2009b) 7.1-7.5

15 月田 (2009b) 7.6-7.7

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

・発表：40%

・課題：40%

・議論への積極的な参加：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：実験言語学研究演習 I / Experimental Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM23210, 科目ナンバリング：LIH-LIN613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語実験の実践

2. Course Title (授業題目) : Practicum of linguistic experiment

3. 授業の目的と概要：本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらうことを期待します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course will provide students teams with the opportunity of a collaborative project to conduct an experiment to experience an empirical study of language. Each project will include forming a research question, designing an experiment or survey, preparing materials and the program, collecting data, analyzing, interpreting the finding, and presenting it. Each student needs to cooperate with other team members to carry out independent research until the course completion under the supervision of the instructor. Students will be fascinated by the activity of empirical language study.

5. 学習の到達目標：実証的な言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない（大いに異なる）ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goal of the practicum is for students to develop the basics of scientific thinking and collaboration skills. Upon the completion of the course, students will understand the significance of data-driven investigations, by facing the big differences between actual human language processing and what you have imagined about it.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

- (1) テーマ策定
- (2) 研究倫理
- (3) 研究デザイン立案
- (4) 実験・調査準備
- (5) 実験・調査実施
- (6) 取得データ分析
- (7) データの解釈
- (8) 研究のまとめ
- (9) 研究成果の共有

8. 成績評価方法：

グループワークへの貢献（50%）、毎回授業の最後に課す小課題（20%）、最終レポート（30%）によって評価する。

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください（初回でその意思の確認をします）。その自信がない場合は受講しないこと。